

教育研究業績書

令和 5 年 5 月 1 日		
氏名 吉 田 千 里 		
教育上の能力に関する事項		
事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例		
「情報処理演習」における 情報リテラシーの実習指導	平成 9 年 4 月 ～ 平成 12 年 3 月	PC の基本操作，Microsoft Office をはじめとする各種ソフトウェアの基本操作と活用，HTML によるウェブ サイト作成，表計算ソフトウェアによる数値計算・基本 統計について，実務的課題を通した実習形式で指導し た。学生各々の PC スキルのレベルに応じて，学生の 手元で実演しながら指導した。また日商ワープロ検定（当 時）をはじめとする各種検定合格基準を到達目標とし， 合格率 100%を達成した。履修学生から「この授業が 1 週間の中で一番楽しみである」との評価を得た。
心理学を専門外とする学生を 対象とした心理学入門	平成 11 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	心理学を専攻しない学生を対象とした心理学の入門編 の授業を担当した。看護学科では，ハードな医療現場で の対人関係やストレスコーピングについて，栄養学部で は食行動に関する心理学的知見について，対象学生の専 門性に合わせて解説した。さらに，知覚実験のグループ ワークなど初学者向けの体験型学習を取り入れたり，専 門用語を極力避けて日常語で表現することに努めたり した。授業評価では「自分の専門領域よりわかりやすく， 体験内容が面白い」と評価された。
「心理学研究実験法」におけ るテーマ選定・実験計画・実 験実施・およびレポート執筆 の指導	平成 30 年 4 月 ～ 令和 3 年 3 月	公認心理師受験資格必修科目である「心理学研究法」の うち実験法の指導を担当した。人の行動や心理に関する 自らの興味関心に基づくテーマ選択，文献調査，実験計 画，手順策定，測定実施，データ解析，レポート執筆ま でを，グループワークとして指導した。特に自らの関心 を心理学的専門知識と関連づけること，また各グループ の到達度を見極めて細かく指導することに注力した。こ の科目での課題をきっかけに卒業研究を決める学生を 多数輩出した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

図書推薦 POP コンテストを通した読書促進活動とプレゼンテーションの指導	平成30年9月 ～ 令和4年3月	学内の読書推進活動として「図書 POP 大賞」を、大学図書館と企画・実施した。従来「読書感想文コンテスト」として実施されてきた企画を、書店店頭で展開される販促 POP の形式に抜本的に刷新した。短文での内容紹介以外に、効果的なキャッチコピー、イラストレーション等の視覚素材を自由に使って学生自身の好きな本を推薦させた。同企画は現在も毎年実施されていて応募作品も年々増加しており、読書推進、文学への関心、ビジネスプレゼンテーションスキルの学習に効果を発揮している。
キャリア形成科目における就職活動支援と採用試験対策の実施		キャリア形成科目「キャリアデザインⅡ・Ⅲ」および「インターンシップ」（令和5年度より「仕事体験」に名称変更）を担当し、3年次での就職活動のスタートアップ、企業情報の収集とインターンシップへの参加と、就職活動を指導している。いずれも栄養学部、および就職支援担当部署と協働して指導に当たる。各種就職情報ナビサイトからの業界選択、自己分析（内省）、プログラムへの応募と参加準備、参加後のフィードバック、履歴書・エントリーシート作成、集団面接・グループワーク・個別面接・SPI など、ステージごとに実践指導する。毎年、受講者からの早期内定者が増加している。
2 作成した教科書・教材 「心理学概論」「心理学入門」「認知心理学」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「感情・人格心理学」「乳幼児心理学」「高齢者心理学」各科目のための教材作成	平成15年4月 ～現在	全担当科目において、論文内グラフ等の重要図版や解剖学アトラスなど視覚素材を活用したオリジナル教材を作成し、活用中である。各回のテーマごとに学術用語と定義、理論の要旨を講師のトークと同じペースで書き留められるよう、穴埋め式ワークシートを採用し、要支援学生やノートテイクの苦手な学生も効果的に学習できる工夫を施した。すべての科目において、学生の受講中の集中力向上に大きな効果を発揮している。さらに授業評価で「授業の進みが速い」の評価が0%となり、「わかりやすい」「ちょうどよい速さ」「資料がわかりやすい」と評価されている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 令和4年度授業評価アンケート	令和4年4月 ～ 令和5年3月	令和4年度の授業評価アンケートでは、心理学専門科目「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「感情・人格心理学」において、「担当教員の熱心さ」86%（科目間平均）、「授業のわかりやすさ」84%、「授業のスピードの適切さ」81%と、おおむね高く評価された。自由記述では、「質問に丁寧に答えてくれる、おもしろい」「臨床心理学を目指していたが、認知の話を聞いて、臨床心理以外の勉強を今

様式第4号（教員個人に関する書類）

		のうちに深めておきたいと思い直した」等、高評価の意見を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 宝塚市民向け講座「甲子園大学公開講座」での授業担当	平成30年2月～現在	オープンキャンパスおよび春季休業期間中に実施する「甲子園大学公開講座」において、市民向けアウトリーチとして以下の2種類の授業を担当した。 1. 「心を支える脳—脳科学入門—」 特に認知神経科学分野の入門編のとして中枢神経系の構造や特徴、「他者の心を読む」メカニズムを解説した。受講希望者数は毎年、開講講座中トップを記録した。 2. ビジネス心理学入門 行動経済学、経済学と認知科学について、Kahnemanらの行動バイアス、Thalerによるナッジ理論を解説した。本講座の聴講生から入学者を確保し、学生募集に貢献した。
兵庫県立宝塚東高等学校出張授業講師	平成30年 5月11日 平成31年 4月23日 令和2年 9月25日	兵庫県立宝塚東高等学校総合健康コース第2学年向けプログラムの講師を務めた。医療・福祉系進路を志望する生徒を対象に、「他人の気持ちを理解する心のはたらき」と題してグループワークの体験授業を行った。高校生の日常場面の写真からモデル人物の外見の観察共に心的状態を推測し、他者の心を読むために必要な視点やスキルを指導した。受講生は普段経験しない視点での観察を必要としたことで、意外性をもって受け入れられた。同講座の受講生から入学者を確保し、学生募集にも貢献した。
阪神シニアカレッジ健康学科講師	令和4年6月8日	兵庫県管轄の生涯学習施設において「高齢者の認知機能と脳—若い時とは何がちがう？—」と題して講義を行った。ヒトの脳の構造、加齢による脳の構造的変化、ヒトの脳の機能的特徴（機能局在性、左右の側性）、高齢期の脳の機能的特徴、認知症と脳、高齢期の認知トレーニングについて解説した。受講生からは「難しいと思っていたが、やさしく面白い説明でとてもよくわかった」「明るく楽しい先生がとてもわかりやすく話してくれて、脳のことをしっかり理解できた」と好評を得た。受講生からのリクエストにより、次年度の開講が決まった。
宝塚市ファミリーサポートセンター 秋の講習会 講師	令和4年 11月11日	「健康な心を支える脳」と題して、同施設の子育て支援の市民ボランティアを対象とした講習会の講師を務めた。ヒトの脳のつくり、機能的特徴（機能局在性、左右側性）、脳にまつわる“都市伝説”と実際、日常生活での動きへの脳の関わりかた、他者の気持ちを読むときの

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

		脳のはたらき方、「心が痛む」ときの脳のはたらき，共感力を高めるための心がけについて，平易な言葉と視覚素材、模型を使って解説した。受講者からは、乳幼児期の行動が脳に及ぼす影響，発達障害児の支援と脳の発達との関わりについて多くの質問が寄せられ、今後は発達障害の行動と脳の理解について講習を行う予定である。
5 その他 「ビジネス心理学領域」の設置構想，制度設計，および運営	平成 29 年 8 月～現在	臨床心理学以外の専門領域として「ビジネス心理学」領域の設置構想を，学長特命により進めた。教育目標，カリキュラム設計，学内および学校法人との折衝を担った。当該領域では，認知心理学・社会心理学の知見と手法がマーケティング戦略の策定・実行に生きる過程の理解を目的とする。平成 31 年度入学生より「マーケティングと心理学」として開始した。令和 3 年度からは学外の上場企業の研究開発・経営の専門的実務経験者を招へいして特別講義を実施し，企業活動の実際を学ぶ。オープンキャンパスでは本領域を志望して来場者が増加すると共に，領域開設初年度の平成 31 年度入学者の 3 分の 1 超の学生の入学につながた。さらに学内で学科間連携にも発展させた。
海外提携校（台湾・中山医学大学）との国際交流制度の充実化と心理学部の新規交流企画の企画	平成 29 年 11 月～平成 31 年 3 月	甲子園大学と国際提携関係にある台湾の中山医学大学（台中市）との 2 年ごとの研修訪問制度を充実化させた。平成 29 年度に学長諮問機関「国際発展会議」が発足し，応募者は心理学部担当委員を務めた。中山医大との研修訪問制度を相互訪問型に変えて，心理学部も含む全学規模で展開するよう制度を拡充した。これに伴い心理学部において意向調査，学内・学外折衝，制度設計を担った。平成 31 年 3 月に甲子園大学より初めての研修訪問が実現し、心理学部内に台湾との国際的学術交流のルートを開拓した。
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格，免許 該当なし		

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

2 学校現場等での実務経験						
兵庫県内高等学校での進路ガイダンス用模擬授業	平成 29 年 4 月 ～現在	兵庫県・京都府の公立高等学校において、心理学分野の進路ガイダンスのための模擬授業を行う。各校からの要望に基づき、大学での心理学の学習内容、得られる資格と進路、体験学習、受験勉強の方法で構成する。心理学実験をアレンジした体験学習を構成し、文理問わず受講者を広く集めている。これまでに以下の高校を担当し、一部の受講者の入学に貢献した。 【兵庫県】 [県立]・川西明峰・宝塚東・香寺・芦屋・川西緑台 ・明石清水・宝塚北・神戸北・川西北稜・西宮今津 ・尼崎北・伊丹 [公立]・明石市立明石商業・伊丹市立伊丹 [私立]・甲子園学院・神戸学院大学附属・神戸野田 ・三田松聖 【京都府】 ・府立東舞鶴・私立京都文教				
3 実務の経験を有する者についての特記事項						
日本ビジネス実務学会近畿ブロック研修会 講師	令和 2 年 2 月 15 日	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研修会において、「授業効果検証のための統計的研究方法：基礎編」と題して教育講演を行った。応募者は実験心理学の立場から、授業方法の効果に関する作業仮説、比較統制の方法、統計検定（効果検証）の結果の読み方の重要性を、実際の授業評価データを用いて解説した。終了後の質疑応答および意見交換会では、参加者の実際のデータが持ち寄られて、比較統制のデザイン、検定法についての相談が寄せられ、それぞれに実験計画法と統計法の具体的な解決法を提案した。				
4 その他						
担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業 科目	著書、学術論文 等の名称	単著 共著	発行 年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概 要
知覚・認知 心理学	(著書) 1. 認知科学辞 典	共	平成 14 年 7 月	共立出 版	1015	日本認知科学会編。執筆者約 400 名。 約 4000 項目を収録した。応募者は 「描画」項目の執筆を担当した

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	2. 感覚・知覚・認知の基礎（現代電子情報通信選書 知識の森）	共	平成 24 年	オーム社	263	本稿では(1) 対象物の位置情報を身体座標系と外部座標系の複数で表現することで、行動空間を視覚で認識するメカニズム、(2) 身体移動に伴い空間情報を適切に変えるプロセス、(3) 以上の機能を実現する頭頂葉－運動前野の脳内ネットワークモデルの 3 点を解説した。特に指さし課題を用いた心理学実験から空間特性を明らかにできる論理、認知神経科学適研究から示唆された脳内メカニズムを詳説した。同書は「電子情報通信学会知識ベース」として公開データベース化された。 （執筆担当部分：電子情報通信学会（編）乾敏郎（監修）。第 12 章「空間のイメージ」pp. 165-178 執筆者 17 名，全 15 章。）
	3. 基礎心理学実験法ハンドブック	共	平成 30 年 6 月	朝倉書店	591	応募者は本書のうち、第 4 部「認知・記憶・注意・感情」の 4.1.6 節「認知発達の研究法」を分担執筆した。乳幼児期の共感性発達に関して、模倣の発達、模倣のメカニズム、心の理論課題、メンタライジング機能、他者の心的状態の理解の各機能について、乳幼児期に適用される実験パラダイムを解説した。さらにこれらの実験パラダイムにより、模倣と共感の脳内メカニズム、特にミラーニューロンシステム（MNS）と背内側前頭前野（DMPFC）の発達が検討できることを解説した。 吉田千里・乾敏郎（著）日本基礎心理学会（監修）坂上貴之・河原純一郎・木村英司・三浦佳世・行場次朗・石金浩史（責任編集），pp. 214-215。
	（学術論文） 1. 周辺視オプティカルフローと中心視奥行知覚のインタラクション.	共	平成 13 年 5 月	電子情報通信学会論文誌 D-I		没入型ヴァーチャルリアリティシステムを用いて、両眼立体視による奥行き弁別のよさが視野の大きさによって影響をうけることを、実験心理学的に明らかにした。同研究において応募者は、実験室での実験実施、実験用プログラムの作成、データ文責、統計解析を担当した。 渡邊洋・梅村浩之・吉田千里・松岡克典. 電子情報通信学会論文誌 D-I, 84-D-I(5), 491-50.

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

2. 多面体描画における視点選択規則.	単	平成 14 年 3 月	認知科学		多面体の描画再生課題を用いて、自己遮蔽のある物体の典型的景観の定量的特性を検討した. 本研究では変則的な凹凸のある立体を観察した後、視覚イメージを直観的に形成して描画再生する課題を考案した。描かれたパターンの可視面数、エッジ（辺）の数、頂点数を定量的に分析した。その結果、直観的にイメージする典型的景観は(1)可視面数が最大となり、(2)不規則的な幾何学的特徴が可能な限り多く含まれていて、(3) より広い範囲（角度）にわたって同じ位相構造である景観となり、定量的に予測可能であることを明らかにした。 認知科学, 9(1), 164-176.
3. パーソナルスペースでのポインティングにおける身体／環境中心的情報の統合的利用.	共	平成 15 年 6 月	認知科学		遠距離にある物体の位置情報の脳内表象について、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した。再生エラーを分析した結果、物体の位置情報は見る人の身体を原点とする身体座標系と、ターゲット周辺の物体を原点とする外部座標系により表現されることを明らかにした。さらに指差し課題での実測エラーは、各座標系内で生じるエラーの期待値の加重和として定式化できることがわかり、Zipser & Andersen による頭頂葉ニューロンの活動をシミュレーションした神経回路網のアルゴリズムと合致することが判明した。以上より、頭頂葉における広域視空間の脳内表現方法を示すことに成功した。 吉田千里・乾敏郎（著）。認知科学, 10(2), 244-257.
4. The transformation process of the visuomotor memory representation of target in far space after body rotation.	共	平成 16 年 7 月	Psychologia		遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスについて、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した。本研究では、物の位置を覚えてから体を水平方向に回転させた後、元の位置を再生する課題と考案した。再生エラーを分析した結果、(1) 位置記憶の、回転前身体方向への偏位と、回転角度と偏位との正比例、(2) 回転後の再生空間

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

					の縮小傾向（10 度回転時で対回転前 90%，140 度回転時で 45%）を明らかにした。 Chisato Yoshida and Toshio Inui (2004). Psychologia, 47(2), 79-95.
（学術論文等：学位論文） 1. 3 次元構造認識における視点の変換と視覚情報の統合	単	平成 16 年 5 月	神戸大学 博士学位論文		人間の行動対象として 3 次元構造が認識されるためには，さまざまに取得される視点間での矛盾のない空間情報の変換過程，異なる座標系表現間の統合過程の機能がきわめて重要である。本論文では，多面体の描画課題，手の届かない空間での指差し課題を通して，空間・物体の身体座標系表現、外部座標系表現の特性と変換プロセスを検討し，3 次元空間の脳内表現と変換過程を明らかにした。さらに神経生理学・神経心理学・認知神経科学・ニューラルネットワークの各知見に基づき 3 次元構造の記憶イメージの統合・変換過程の脳機能モデル（頭頂－側頭－前頭ネットワーク）を提案した。本論文は応募者の学位請求論文として神戸大学に提出され，大学院文化学研究科（博士課程；当時）での審査を経て士（学術）を授与された。
（学術論文等：査読付き国際会議） 1. Embodied representation of personal space indicated in pointing behavior.	共	平成 13 年 3 月	International Symposium on Neural control of space coding and action production		遠距離空間の位置記憶の特性を，短期記憶による指さし再生課題を考案して検討した。再生エラーの分析の結果，(1) 遅延再生時では，観察者の身体中心より外側へ偏位すること，(2) 完全遮蔽視野での再生で，身体中心方向に偏位すること，(3) 完全遮蔽視野での身体の水平回転により，回転後の身体方向に偏位することを明らかにした。このことから，広域空間内の対象の位置情報は，観察者の身体の向きにかかわらず，身体を原点とする座標系で原点方向に偏位して記憶すること明らかにした。 抄録掲載：Yoshida, C and Inui, T. (2001) In D. Péllison, C. Prablanc, and Y. Rosetti (Eds.) International

						Symposium on Neural control of space coding and action production, 118-119.
	2. Short-term memory representation of target location within walking distance.	共	平成 13 年 8 月	Perception		遠距離にある物体の位置情報の記憶表象について、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した。再生エラーを分析した結果、物体の位置情報は見る人の身体を原点とする身体座標系と、ターゲット周辺の物体を原点とする外部座標系により表現されることを明らかにした。さらに指差し課題での実測エラーは、各座標系内で生じるエラーの期待値の加重和として定式化できることがわかり、広域空間での位置記憶の偏位量を予測した。 抄録掲載：Yoshida, C. and Inui, T. (2001) in Perception, 30 (Suppl.), 85.
	3. Effect of observer's translation on the spatial memory of target in walking distance.	共	平成 14 年 8 月	Perception		遠距離にある物体の位置記憶への、身体移動による影響を、短期記憶による指さし再生課題で検討した。再生エラーの分析の結果、(1) 身体移動の順方向への偏位と、偏位量の一定性、(2) 移動後身体を原点とする座標系と、ターゲット周辺物体を原点とする外部座標系に基づく偏位量の記述可能性、(3) 指さしエラー量予測の定式化を示した。さらにこの定式化が、Zipser & Andersen による頭頂葉ニューロンの活動をシミュレーションした神経回路網のアルゴリズムと合致することも明らかにし、身体移動に伴う空間の変換が頭頂葉で行われることを行動学的に示した。 抄録掲載：Yoshida, C., Sukemiya, H., and Inui, T. (2002) in Perception, 31 (Suppl.), 89.
	4. Transformation of spatial short-term memory representation for body rotation.	共	平成 15 年 9 月	Perception		遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスを、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した。本研究では、位置記憶後に身体を水平回転後、記憶再生する課題と考案した。再生エラーを分析した結果、位置記憶の、回転前身体方向への偏位と、回転角度と偏位との正比例関係、先行研究 (Yoshida & Inui, 2001, 2002) の再生エラー量予

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

						測の定式化と矛盾ないことを明らかにした。 抄録掲載：Yoshida, C. and Inui, T. (2003) in Perception, 32 (Suppl.), 62.
5. Transformation of body-centered spatial memory representation for pointing after body rotation.	共	平成 16 年 8 月	Perception			遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスについて、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した。本研究では、物の位置を覚えてから体を水平方向に回転させた後、元の位置を再生する課題と考案した。再生エラーを分析した結果、(1) 位置記憶の、回転前身体方向への偏位と、回転角度と偏位との正比例、(2) 回転後の再生空間の縮小傾向（10 度回転時で対回転前 90%，140 度回転時で 45%）を明らかにした。 抄録掲載：Yoshida, C. and Inui, T. (2003) in Perception, 33 (Suppl.), 168.
6. Linear functions of actual head and gaze angles estimate shift of perceived gaze direction in 2-D and 3-D situations.	共	平成 17 年 8 月	Perception			他者の視線方向の知覚特性について、対面場面および顔画像観察場面で心理実験を行い、定量的に明らかにした。知覚方向の分析の結果、(1) 観察者直視方向から頭の回転方向に（外側へ）逸れた視線を、観察者直視と知覚すること、(2) モデル人物の頭に対して視線が逆方向に逸れると、視線は観察者方向へ偏って知覚され、偏位量はモデルの頭部方向と視線方向により線形近似できること、(3) 2 次元提示された視線方向は、3 次元空間での視線方向の約 87% にまで過小評価されることを明らかにした。 抄録掲載：Yoshida, C., Kamachi, M., Hill, H., and Verstraten, F. (2005) in Perception, 34 (Suppl.), 168-9.
（その他：査読無し学術会議） 1. 立体の線描画過程の分析.	単	平成 7 年 11 月	関西心理学会 第 107 回大会発表論文集.			不規則な凹凸のある多面体の描画再生課題を用いて、遮蔽のある 3 次元物体がどのように記憶され、視覚的なイメージとしてどのような形状が想起されるのかを検討した。描画順序を分析した結果、多面体はいくつかの要素的立体に分節化して記憶され、遮蔽部分をできるだけ避ける景観でイメージされることを示した。

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	2. 3 次元物体の線描画過程の分析.	単	平成 8 年 9 月	日本心理学会第 60 回大会発表論文集.		不規則な凹凸のある多面体の描画再生課題を用いて、遮蔽のある物体の形状の記憶方略を検討した。描画順序を分析した結果、(1) 多面体の全体的形状を決める面を断面として記憶し、筒状に延伸させることで立体化する方法と、(2) 多面体を凹部で分節化して複数の単純な形状の要素的立体に分け、相互の位置関係を記憶することで立体化する方法があることがわかった。
	3. 物体の generic view の描画と観察者の視点.	単	平成 9 年 9 月	日本心理学会第 61 回大会発表論文集.		不規則な凹凸のある多面体の描画再生課題を用いて、遮蔽のある物体の形状をよく表す景観 (generic view) の特性を検討した。描画パターンを分析した結果、描かれたパターンの多くは実際に観察した景観とは別の景観で、より広い範囲で得られる形の景観が描画方向として選択されることを明らかにした。
	4. 多面体描画課題による物体の見えるの分析.	共	平成 10 年 10 月	日本心理学会第 62 回大会発表論文集.		不規則な凹凸のある多面体の描画再生課題と直射投影図の再認課題を通して、多面体の形状を最もよく表す景観の判断に対する実際の観察景観による影響を調べた。観察景観に含まれる多面体の面の数を操作すると、最大面数未満の景観を観察した場合、最大面数を含む景観を観察した場合よりも、多方向からの景観を含む景観を描画し、かつ多方向の投影図を正しく再認できた。この結果から、観察した景観によって記憶される多面体の形状が大きく異なり、全体的な形状を表現できない場合があることを示した。 吉田千里・喜多伸一・松嶋隆二 (1998)。
	5. 観察した面の数の違いによる投影方向選択の違い.	単	平成 11 年 9 月	日本心理学会第 63 回大会発表論文集.		不規則な凹凸のある多面体の直射投影図の再認課題を通して、観察景観に含まれる面の数の違いが景観判断に及ぼす影響を調べた。その結果、観察面数が最大数に満たない条件では、水平軸・鉛直軸・矢状軸のいずれの軸についても投影図を回転させて、より多くの方向での投影図を得て、多方向の投影図を正しく再認した。しかし、異なる形状の多面体の

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

						投影図に対して同一の形状であると有意に誤って判断し、遮蔽に強く影響された。このことから、多面体の形状認識の精度は観察される面の数に影響されることを示した。
	6. Characteristics of spatial memory and transformation through pointing behavior in walking distance.	共	平成 12 年 8 月	The First International Symposium on Integrative Use of Internal Knowledge and External Information in Human Cognition		遠距離にある物体の位置の記憶特性を、短期記憶による指さし再生課題で検討した。再生エラーの分析の結果、(1) 遅延再生時には、観察者の身体中心より外側へずれて想起されること、(2) 視野の完全遮蔽による再生時には、身体中心方向にずれて想起されること、(3) 身体の水平回転後の再生時では、回転後の身体の方へずれて想起されることを明らかにした。このことから、広域空間の物体の位置を観察者の身体を原点とする座標系で表現する際、観察者の身体つまり原点方向へずれることがわかった。 この研究は、国際会議で英語により口頭発表された。Yoshida, C. and Inui, T. (2000).
	7. 空間記憶における身体と環境の相互作用 (I) 環境情報の影響.	共	平成 13 年 11 月	日本心理学会 第 65 回大会発表論文集.		遠距離にある物体の位置の記憶特性を、短期記憶による指さし再生課題で検討した。再生エラーの分析の結果、空間情報は観察者の身体を原点とする身体座標系と、ターゲット以外の物体を原点とする外部座標系の複数の座標系で表現されることを明らかにした。また再生エラーの実測値は、各座標系の位置情報から計算されるエラーの期待値の加重和として定式化でき、広域空間の物体の記憶された位置を定量的に予測可能であることを示した。 吉田千里・乾敏郎（2001）日本心理学会第 65 回大会発表論文集，114.
	8. 空間記憶における身体と環境の相互作用 (II) 平行移動の影響.	共	平成 14 年 11 月	日本心理学会 第 66 回大会発表論文集.		遠距離にある物体の位置記憶が、身体の平行移動により変化する特性を、短期記憶による指さし再生課題で検討した。再生エラーの分析の結果、(1) 身体の移動方向に対して順方向にずれて再生され、エラーの大きさは移動距離に依存せず同じであること、(2) 再生エラーは移動後の身体を原点とする身体座標系と、タ

					ーゲット周辺物体を原点とする外部座標系で表現されること、(3)再生エラーの実測値は、各座標系から計算されるエラーの期待値の加重和で定式化できることがわかった。これらのことから、広域空間で観察者が平行移動した際の位置記憶を定量的に予測可能であることを示した。 吉田千里・助宮治・乾敏郎（2002）日本心理学会第 66 回大会発表論文集，667.
	9. 自閉症の認知障害： Biological Motion の認知について.	共	平成 15 年 5 月	第 45 回日本小児神経学会総会抄録集.	自閉症児の社会的コミュニケーションの弱さと「心の理論 (Theory of Mind) 」の弱さとの関係について、ヒトの表情を表すバイオリジカルモーション (BM) を用いた表情再認識課題をとおして検討した. BM への正答率と、ランダムな点の運動に対して「生物の運動」と認識した誤答率を測定して、精神年齢を統制した定型発達児と比較した. その結果、自閉症児群では BM 正答率が低く、かつランダムな点運動への FA が高いことがわかった. このことから、自閉症児の社会的コミュニケーションの弱さにの基礎に、ヒトを含む生物の運動の検出の困難さがあることを示した. 本研究において応募者は、表情判断課題の実験計画と統計解析を担当した。 安原昭博・堀あいこ・片山正寛・江口博美・吉田千里・乾敏郎（2003）脳と発達，35 (Suppl.)：第 45 回日本小児神経学会総会抄録集，S160.
	10. 身体の回転に伴う空間記憶の変換過程.	共	平成 15 年 6 月	日本認知心理学会第 1 回大会発表論文集.	遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスについて、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した. 本研究では、物の位置を覚えてから体を水平方向に回転させた後、元の位置を再生する課題と考案した. 再生エラーを分析した結果、(1) 位置記憶の、回転前身体方向への偏位と、回転角度と偏位との正比例 (2)完全暗所下での再生エラーの倍増傾向を明らかにした。以上の再生エラーはすべて、回転前身体を原点とする身体座標系と、回転前後で常に観察可能な環境物体を

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

					原点とする外部座標系で表現され、予測されるエラーの期待値の加重和（Yoshida & Inui, 2001, 2002）で定量的に予測できることを示した。本研究により応募者は、日本認知心理学会第 1 回大会優秀発表賞（発表力部門）を受賞した。 吉田千里・乾敏郎（2003）。
	11. 自閉症における Biological Motion の認知障害.	共	平成 15 年 6 月	日本認知心理学会第 1 回大会発表論文集.	自閉症児の社会的コミュニケーションの弱さと「心の理論 (Theory of Mind)」の弱さとの関係について、ヒトの表情を表すバイオリジカルモーション (BM) を用いた表情再認識課題をとおして検討した。BM への正答率と、ランダムな点の運動に対して「生物の運動」と認識した誤答率を測定して、精神年齢を統制した定型発達児と比較した。その結果、自閉症児群では BM 正答率が低く、かつランダムな点運動への FA が高いことがわかった。このことから、自閉症児の社会的コミュニケーションの弱さにの基礎に、ヒトを含む生物の運動の検出の困難さがあることを示した。本研究において応募者は、表情判断課題の実験計画と統計解析を担当した。 安原昭博・堀あいこ・片山正寛・江口博美・吉田千里・乾敏郎（2003）。
	12. 空間記憶における身体と環境の相互作用 (III) 身体の回転の影響.	共	平成 15 年 9 月	日本心理学会第 67 回大会発表論文集.	遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスについて、短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した。本研究では、物の位置を覚えてから体を水平方向に回転させた後、元の位置を再生する課題と考案した。再生エラーを分析した結果、(1) 位置記憶の、回転前身体方向への偏位と、回転角度と偏位との正比例関係、(2) 身体座標と外部座標による位置表現の加重和（Yoshida & Inui, 2001, 2002）によりエラー量が予測可能であることを明らかにした。 吉田千里・乾敏郎（2003）。

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	13. 身体の回転に伴う身体中心的空间表現の変換.	共	平成 16 年 5 月	日本認知心理学会第 2 回大会発表論文集.		遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスについて、短期記憶に基づく位置の指し再生課題を用いて検討した。本研究では、物の位置を覚えてから体を水平方向に回転させた後、元の位置を再生する課題と考案した。再生エラーを分析した結果、(1) 位置記憶の、回転前身体方向への偏位と、回転角度と偏位との正比例、(2) 回転後の再生空間の縮小傾向（10 度回転時で対回転前 90%、140 度回転時で 45%）を明らかにした。 吉田千里・乾敏郎（2004）.
	14. 人間の視線方向の知覚特性：頭部方向、光源位置、および顔画像からの推定の影響.	共	平成 17 年 7 月	日本認知科学会第 22 回大会発表論文集.		他者の視線方向の知覚特性について、対面場面とおよび顔画像観察場面で心理実験を行い、定量的に明らかにした。知覚方向の分析の結果、(1)外側へ逸れた視線を観察者直視と知覚すること、(2)モデル人物の頭とは逆方向の視線について観察者方向へ偏位して知覚し、偏位量はモデルの頭部方向と視線方向より線形近似できること、(3)2 次元提示された視線方向は、3 次元空間での視線方向の約 87%にまで過小評価されることを明らかにした。 吉田千里・蒲池みゆき・Harold Hill・Frans Verstraten（2005）.
	15. 顔画像から感じる視線.	共	平成 17 年 9 月	フォーラム顔学 2005：日本顔学会第 10 回大会抄録集.		顔画像から知覚される視線方向の定量的特性を明らかにするため、視線方向判別実験を行った。その結果、観察者への直視視線は実空間での対面時と同程度に高感度で検出されたが、逸れた視線は観察者の方へずれて知覚された。また知覚される視線方向はモデルの頭部方向の線形関数で記述でき、観察者から左右 15 度内にある逸脱視線の方向は、対面時の約 87%に過小評価されることもわかった。 吉田千里・蒲池みゆき・Harold Hill・Frans Verstraten（2005）.
	（その他：技術報告書） 1. Representative perspective in line drawing of polyhedral	共	平成 10 年 1 月	電子情報通信学会技術研究報告.		不規則な凹凸のある多面体の描画再生課題と直射投影図の再認課題を通して、多面体の形状を最もよく表す景観の判断に対する実際の観察景観による影響を調べた。観察景観に含

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	objects.					まれる多面体の面の数を操作すると，最大面数未満の景観を観察した場合，最大面数を含む景観観察した場合よりも，多方向からの景観を含む景観を描画し，かつ多方向の投影図を正しく再認できた．この結果から，観察景観によって多面体の形状表現が大きく異なることがわかった。 Yoshida, C., Kita, S., and Matsushima, T. (1998). Technical Report of IEICE, HIP97-34, 37-44.
	2. ポインティング動作に基づく空間認知特性の検討.	共	平成 12 年 9 月	電子情報通信学会技術研究報告.		遠距離にある物体の位置の記憶特性を，短期記憶による指さし再生課題で検討した．再生エラーの分析の結果，(1) 遅延再生時の外側への偏位，(2) 完全遮蔽視野下での，身体方向への偏位，(3) 水平回転後の，回転後身体方向への偏位を明らかにした．これらから，広域空間の位置記憶のうち観察者の身体座標系表現は，観察者の身体つまり原点方向へ偏位することを示した。 吉田千里・乾敏郎（2000）．電子情報通信学会技術研究報告，HCS2000-15, 9-16.
	3. ポインティング課題を用いた空間認知特性の検討：平行移動による影響.	共	平成 14 年 1 月	電子情報通信学会技術研究報告.		遠距離空間の記憶が，身体の平行移動により変化する特性を，短期記憶による指さし再生課題で検討した．再生エラーの分析の結果，(1)移動方向の順方向への偏位と，偏位量の一定性，(2) 再生エラーの座標系表現（移動後身体中心の座標系と，外部座標系）がわかり，エラー量が定量的に予測であることを示した。 助宮治・吉田千里・乾敏郎（2002）電子情報通信学会技術研究報告，HCS2001- 42, 61-66.
	4. 身体の回転による空間認知特性の検討：ポインティング課題による検討.	共	平成 14 年 12 月	電子情報通信学会技術研究報告.		遠距離にある物体の位置情報の脳内での変換プロセスについて，短期記憶に基づく位置の指さし再生課題を用いて検討した．本研究では，物の位置を覚えてから体を水平方向に回転させた後，元の位置を再生する課題と考案した．再生エラーを分析した結果，(1) 位置記憶の，回転前身体方向への偏位と，回転角度と偏位との正比例関係，(2)身体座標と外部座標による位置表現の加重和（Yoshida & Inui, 2001, 2002）により

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

					エラー量が予測可能であることを明らかにした。 吉田千里・乾敏郎（2002）. 電子情報通信学会技術研究報告, HIP2002-52, 57-62.
	5. 身体の回転に伴う空間記憶の変換とその神経基盤.	共	平成 16 年 6 月	電子情報通信学会技術研究報告.	遠距離にある対象の位置情報が、身体の水平回転に伴い変換されるメカニズムを、短期記憶による指さし再生時のエラーの分析から（Yoshida & Inui, 2001, 2002, 2003; Yoshida, Sukemiya, & Inui, 2002）で定量的予測可能性を示した。また神経生理学的研究および Zipser & Andersen による神経回路網シミュレーションから、広域空間情報が頭頂葉後部と頭頂間溝後部でそれぞれ、身体座標系と外部座標系で符号化し、背側運動前野で加重和を計算されることで、統一的な座標系で空間を境界なく表現すること示した。 吉田千里・乾敏郎（2004）. 電子情報通信学会技術研究報告, NC2004-16, 25-30.
	6. 人間の視線方向の知覚特性：頭部方向および光源位置の影響.	共	平成 16 年 11 月	電子情報通信学会技術研究報告.	他者の頭の向きと光源の位置、他者の視線方向の知覚的關係について、視線方向の弁別課題と定位課題により検討した。頭部が 15 度回転すると、直視視線は頭部回転方向に約 1 度偏位して知覚された。また観察者から視線が逸脱するほど、また頭部の回転角度が増大するほど、観察者方向への偏位が知覚された。さらに光源方向への視線は、光源の逆方向に偏位して知覚され、偏位量は観察者の左 60 度方向の光源で約 2 度と定量的に予測できた。 吉田千里・蒲池みゆき・Harold Hill・Frans Verstraten（2005）. 電子情報通信学会技術研究報告, PRMU2004-119 (HIP20041-59), 83-88.
	7. 授業効果検証のための統計的研究方法：基礎編.	単	令和 2 年 6 月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック報	応募者は実験心理学の立場から、授業方法の効果に関する作業仮説、比較統制の方法、統計検定（効果検証）の結果の読み方の重要性を、実際の授業評価データを用いて解説した。本研究は、日本ビジネス実務学会近畿ブロック研修会において、教育講演として発表された。 吉田千里（2020）日本ビジネス実務

様式第4号（教員個人に関する書類）

						学会近畿ブロック報, 34, 17-19.
乳幼児心理学（発達心理学1）	（著書） 1. 高校生のための心理学講座—こころの不思議を解き明かそう	共	平成 28 年 1 月	誠信書房	19	本書は、日本心理学会主催「2014 年度高校生講座でのプログラム」のうち、京都・滋賀・大阪の公立高校の生徒たちによる探求型プログラムの報告書に相当する。応募者は第9章において、滋賀県立膳所高等学校の生徒ら、京都大学教育学研究科大学院生2名と共に、執筆を担当した。同校生徒らは京都市動物園の大型霊長類（ゴリラ）を対象として、ヒトが逆模倣した際のゴリラの反応の観察・分析、および体感温度変動時の他個体への行動に関する比較心理学的研究を実施した。同章はこの研究成果と活動の記録である。応募者は、実験の計画・実施、現地アテンド、レポート執筆、および学会発表の各指導を行った。 執筆担当部分：田中友香理・齋藤有吾・吉田千里. 第9章「ほかの動物にはない人間らしい心とは何か」内田伸子・板倉昭二（編）心理学叢書, pp. 147-168.
	2. 基礎心理学実験法ハンドブック					
	（学術論文等：国際学術雑誌） 1. Cognitive developmental robotics: A survey.	共	平成 21 年	IEEE Transactions on Autonomous Mental Development		「認知発達ロボティクス」という構成論的アプローチの取り組みを解説した。この立場は、人間の認知発達過程を模した人工エージェントを設計・実装することで、エージェントの自律的な社会性獲得を目指したもので、ロボット工学、情報科学、ニューラルネットワークシミュレーション、認知神経科学、神経心理学、発達心理学との学際研究からなる。応募者は認知心理学の立場から、乳幼児期には身体的な相互作用から対人相互作用の知見を調査し、ロボットの身体性から、人工エージェントの社会性獲得における身体運動の協調制御システムの獲得・設計の必要性を提案した。

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

					M. Asada, K. Hosoda, Y. Kuniyoshi, H. Ishiguro, T. Inui, Y. Yoshikawa, M. Ogino, & C. Yoshida (2009) IEEE Transactions on Autonomous Mental Development, 1(1), 12-34.
	2. Humans but not chimpanzees vary face-scanning patterns depending on contexts during action observation.	共	平成 27 年 11 月	PLoS ONE	ヒトの社会的能力として他個体の顔への注意配分の高さに着目し、ヒト成人、ヒト幼児、チンパンジー成体の 3 群を対象に視線計測法と画像解析を用いて、顔への注視パターンとその発達特性を調べた。その結果、成人とチンパンジーの成体、ヒト幼児と成人との各ペアで、モデル人物の行為に依存して顔への注視タイミングが異なることを明らかにした。この結果、ヒトだけが他個体の顔からその個体の心的状態を推論する機能を 3～4 歳で獲得することを示唆した。応募者は認知心理学の立場から、視覚的注意機構としての眼球運動パターンの解説、画像解析、認知心理学的考察を担当した。 Myowa-Yamakshi, M., Yoshida, C., and Hirata, S. (2015). PLoS ONE 10(11) : e0139989
	（学術論文等：査読付き国際会議） 1. 社会的認知機能の発達：協調的運動制御からコミュニケーションへ.	共	平成 19 年 9 月	第 25 回日本ロボット学会学術後援会講演概要集.	ひとの乳幼児期の認知発達における学習プロセスを分析して、ロボットの自律的な社会性獲得のための行動パターンの設計方針を提案した。応募者は乳幼児期の対人相互作用が社会的場面におけるスクリプトや社会規範といった高次の社会的知識の関与なく成立可能である点に特に着目して、他者との間で身体運動を調整する協調運動の成立が重要と考えた。そして乳児と養育者との単純な身体運動のやりとり場面の運動解析を行い、生後 6 か月ごろの発達初期のコミュニケーションは児と養育者との身体運動の同期と交換によって成立可能であると示した。 抄録掲載：吉田千里・石黒浩・浅田稔（2007）第 25 回日本ロボット学会学術講演会講演概要集.

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	2. 触覚センサスーツを用いた母子インタラクションの計測.	共	平成 20 年 4 月	日本赤ちゃん学会第 8 回学術集会要旨集.	光学式触覚センサを配したスーツ型センサを用いて、実の母子ペア群ならびに他人女性と乳児のペア群を対象に、抱っこ時の乳児・大人それぞれの運動データを接触（圧力）パターンから計測した。センサ信号について非線形パターン認識により接触パターンを識別すると共に、録画映像から乳児と大人それぞれの運動解析を行った。その結果、実母の抱っこは他人女性のそれと比べて、胴体と非利き腕の動きに差異があることを明らかにした。育児経験のある他人女性も含まれたことから、実の母子間では乳児の身体および運動に対してダイナミックに応答することも指摘できた。本研究において応募者は、実験計画、実験実施、運動解析後の統計解析、発達心理学の知見調査を担当した。 保坂紗智子・吉田千里・國吉康夫・浅田稔（2008）.
	3. 触覚センサスーツを用いた母子間抱っこの解析	共	平成 21 年 5 月	日本赤ちゃん学会第 9 回学術集会要旨集.	2008（平成 20）年発表の、成人女性と乳児のペアによる抱っこ時の触覚センサデータならびに運動解析データを用いて、実母および他人女性の抱っこの形をパターン分類した。抱っこ中の運動パターンおよび接触パターンともに、測定パターンを時系列化せず線形解析することで、実母と他人女性とのクラスタ化に成功した。このことから、成人女性の抱っこの運動パターンの差異は時系列上の微視的な特徴点ではなく、ホリスティックなパターンとしてインタラクションのしかた全体が基本的に異なる可能性を指摘できた。本研究において応募者は、実験計画、実験実施、運動解析後の統計解析、発達心理学の知見調査を担当した。 保坂紗智子・吉田千里・國吉康夫・浅田稔（2009）.

様式第4号（教員個人に関する書類）

	4. 協調的運動課題における乳児の動作リズムと生成タイミングの調整.	共	平成 21 年 8 月	日 本 心 理 学 会 第 73 回 大 会 発 表 論 文 集.		乳児期の上肢の自発的な運動（バンギング）の周期性を定量的に調べて、乳児期の自発的運動に他者から介入されることで、乳児の運動が協調的に実行されることを明らかにした。その結果、本来的に対人相互作用のない自発的運動でも、他者による実行を知覚することで周期の変調、さらに他者とのターンテイキングが生じた。このことから、乳児期初期では他者の運動を知覚することで身体運動のやりとりを始めることを明らかにした。 吉田千里・石黒浩・浅田稔（2009）.
	5. 手遊び課題における幼児のリズム変調とタイミング調整.	共	平成 22 年 9 月	日 本 心 理 学 会 第 74 回 大 会 発 表 論 文 集.		幼児期に観察される手遊び歌に協調性が含まれることに着目して、3 歳児と実母との対面での手遊びを動画解析して、手の動きの順序と運動の精度を調べた。その結果、(1)児は親の動きを見て手ぶりを反応的に生成すること、(2)制御の難しい動きでは相手の手ぶりより遅れやすいこと、(3)運動のリズムや繰返し回数を調節することでタイミングをダイナミックに調整することを明らかにし、3 歳児の認知的な調整方略を示した。 吉田千里・石黒浩・浅田稔（2010）.
学習・言語心理学	1. 感覚・知覚・認知の基礎（現代電子情報通信選書 知識の森）	共	平成 24 年	オーム社		（再掲のため、略）
	2. 基礎心理学実験法ハンドブック	共	平成 30 年 6 月	朝倉書店		（再掲のため、略）
	（学術論文） 1. 多面体描画における視点選択規則.	単	平成 14 年 3 月	認知科学		（再掲のため、略）

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	3. パーソナルスペースでのポインティングにおける身体／環境中心的情報の統合的利用.	共	平成 15 年 6 月	認知科学		(再掲のため、略)
	4. The transformation process of the visuomotor memory representation of target in far space after body rotation.	共	平成 16 年 7 月	Psychologia		(再掲のため、略)
	(学術論文等：学位論文) 1. 3 次元構造認識における視点の変換と視覚情報の統合	単	平成 16 年 5 月	神戸大学 博士学位論文		(再掲のため、略)
	(学術論文等：査読付き国際会議) 1. Embodied representation of personal space indicated in pointing behavior.	共	平成 13 年 3 月	International Symposium on Neural control of space coding and action production		(再掲のため、略)
	2. Short-term memory representation of target location within walking distance.	共	平成 13 年 8 月	Perception		(再掲のため、略)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	3. Effect of observer's translation on the spatial memory of target in walking distance.	共	平成 14 年 8 月	Perception		(再掲のため、略)
	4. Transformation of spatial short-term memory representation for body rotation.	共	平成 15 年 9 月	Perception		(再掲のため、略)
	5. Transformation of body-centered spatial memory representation for pointing after body rotation.	共	平成 16 年 8 月	Perception		(再掲のため、略)
	(その他：査読無し学術会議) 1. 立体の線描画過程の分析.	単	平成 7 年 11 月	関西心理学会 第 107 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)
	2. 3 次元物体の線描画過程の分析.	単	平成 8 年 9 月	日本心理学会 第 60 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)
	3. 物体の generic view の描画と観察者の視点.	単	平成 9 年 9 月	日本心理学会 第 61 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	4. 多面体描画課題による物体の見えるの分析.	共	平成 10 年 10 月	日本心理学会 第 62 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)
	5. 観察した面の数の違いによる投影方向選択の違い.	単	平成 11 年 9 月	日本心理学会 第 63 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)
	6. Characteristics of spatial memory and transformation through pointing behavior in walking distance.	共	平成 12 年 8 月	The First International Symposium on Integrative Use of Internal Knowledge and External Information in Human Cognition		(再掲のため、略)
	7. 空間記憶における身体と環境の相互作用 (I) 環境情報の影響.	共	平成 13 年 11 月	日本心理学会 第 65 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)
	8. 空間記憶における身体と環境の相互作用 (II) 平行移動の影響.	共	平成 14 年 11 月	日本心理学会 第 66 回 大会発表論文 集.		(再掲のため、略)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	9. 自閉症の認知障害： Biological Motion の認知について.	共	平成 15 年 5 月	第 45 回 日本小児神経学会総会抄録集.		(再掲のため、略)
	10. 身体の回転に伴う空間記憶の変換過程.	共	平成 15 年 6 月	日本認知心理学会第 1 回大会発表論文集.		(再掲のため、略)
	11. 自閉症における Biological Motion の認知障害.	共	平成 15 年 6 月	日本認知心理学会第 1 回大会発表論文集.		(再掲のため、略)
	12. 空間記憶における身体と環境の相互作用 (III) 身体の回転の影響.	共	平成 15 年 9 月	日本心理学会第 67 回大会発表論文集.		(再掲のため、略)
	13. 身体の回転に伴う身体中心的空間表現の変換.	共	平成 16 年 5 月	日本認知心理学会第 2 回大会発表論文集.		(再掲のため、略)
	(その他：技術報告書) 1. Representative perspective in line drawing of polyhedral objects.	共	平成 10 年 1 月	電子情報通信学会技術研究報告.		(再掲のため、略)
	2. ポインティング動作に基づく空間認知特性の検討.	共	平成 12 年 9 月	電子情報通信学会技術研究報告.		(再掲のため、略)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	3. ポインティング課題を用いた空間認知特性の検討：平行移動による影響.	共	平成 14 年 1 月	電子情報通信学会技術研究報告.		(再掲のため、略)
	4. 身体の回転による空間認知特性の検討：ポインティング課題による検討.	共	平成 14 年 12 月	電子情報通信学会技術研究報告.		(再掲のため、略)
	5. 身体の回転に伴う空間記憶の変換とその神経基盤.	共	平成 16 年 6 月	電子情報通信学会技術研究報告.		(再掲のため、略)
感情・人格心理学	(学術論文等：国際学術雑誌) 1. Cognitive developmental robotics: A survey.	共	平成 21 年	IEEE Transactions on Autonomous Mental Development		(再掲のため、略)
	2. Humans but not chimpanzees vary face-scanning patterns depending on contexts during action observation.	共	平成 27 年 11 月	PLoS ONE		(再掲のため、略)
	(学術論文等：査読付き国際会議) 1. 社会的認知機能の発達：協調的運動制御からコミュニケーションへ.	共	平成 19 年 9 月	第 25 回日本ロボット学会学術後援会講演概要集.		(再掲のため、略)

様式第4号（教員個人に関する書類）

	2. 触覚センサーを用いた母子インタラクションの計測.	共	平成 20 年 4 月	日本赤ちゃん学会第 8 回学術集会要旨集.		(再掲のため、略)
	3. 触覚センサーを用いた母子間抱っこの解析	共	平成 21 年 5 月	日本赤ちゃん学会第 9 回学術集会要旨集.		(再掲のため、略)
	9. 自閉症の認知障害： Biological Motion の認知について.	共	平成 15 年 5 月	第 45 回日本小児神経学会総会抄録集.		(再掲のため、略)
	11. 自閉症における Biological Motion の認知障害.	共	平成 15 年 6 月	日本認知心理学会第 1 回大会発表論文集.		(再掲のため、略)
仕事体験 (心理学部)	該当なし					
キャリアデザインⅡ	該当なし					
キャリアデザインⅢ	該当なし					
マーケティングと心理学	該当なし					